

## 令和4年度 第1回 湖西市未来ビジョン会議 会議録

開催日時	令和4年9月12日（月）10：00～12：00
開催場所	湖西市役所 2階 市長公室
委員	（出席者） 9人 （欠席者） 2人 ※事務局 5人
<b>内 容</b>	
1 開会	進行：企画政策課長
2 委員の紹介	各委員、事務局の紹介
3 座長あいさつ（山家副市長）	<ul style="list-style-type: none"><li>・新型コロナウイルス感染症の市内感染状況、引き続きの感染防止対策について</li><li>・「まち・ひと・しごと創生法」について</li><li>・第2期湖西市まち・ひと・しごと創生総合戦略について</li></ul>
4 議事	<p><b>(1) 2021年度総合戦略事業の効果検証について</b></p> <p>＜事務局＞</p> <p>説明 資料1：第2期湖西市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業効果検証シート 【2021年度事業の評価】</p> <p>資料2：第2期湖西市まち・ひと・しごと創生総合戦略指標一覧</p> <p>[戦略1、2について説明]、[事前質問について]</p> <p>※事前質問への回答については、別紙「事前質問事項一覧」参照</p> <p>(質疑・意見交換)</p> <p>＜座長（副市長）＞</p> <p>挨拶の中でお話させていただいたが、新型コロナウイルスの影響を受けたことにより、思うように取り組みが進められなかった部分もあり、評価が難しいところもあるかと思う。今年度については、感染防止対策を図りながら社会経済活動を回していくことにも重点が置かれ始め、徐々にだが行事やイベントなどが3年ぶりに開催できるようにな</p>

ったため、今年度の評価についてはまた違ってくるかと思うが、まずは昨年度の評価ということで、事務局からの説明や評価について、ご意見や質問をお願いします。

#### <竹田委員>

指標の数値の出所について一部は市民意識調査からなど分かるように記載があるが、施策によって記載のないところがある。数値によって評価をすることになっているので、数値についてはどうやって計測をされたか分かるようになっている方がいい。

#### <事務局>

資料1について確認し、公表の際に修正する。

#### <森谷委員>

資料1の7ページ「施策12 生涯学習・スポーツ振興」の成果指標「生涯を通じて幅広い学習・スポーツ活動ができる環境の充実の満足度について、東京オリンピックの影響もあり、目標値25%に対して2021年度は61%と高い数値になっているが、このように目標値を上回った指標について、修正などを考えているか？

#### <事務局>

短期的には数値の動向を見守って5年間の評価をしていくが、総合計画の見直しの中で目標値を大きく超えているものについては上方修正も考えたい。施策12の数値についても、来年度は更に増えるのか減るのかというところも評価をされる部分であると考えため、今年度はこのまま様子を見る。

#### <末吉委員>

「施策13 共生社会」の成果指標「外国人市民に親しみを感じる日本人市民の割合」について、市民意識調査結果の年齢別の状況を教えてほしい。

#### <事務局>

「親しみを感じる」、「どちらかといえば感じる」をあわせた割合が、16～29歳が40%弱、30歳代約25%、40歳代30%弱、50歳代20%弱、60歳代20%程度、70歳以上20%程度。

#### <末吉委員>

人口が減る一方で外国人人口が増えている中で、大人が連れてきた子どもたちで日本語の支援が必要な子どもがたくさんいる。その子どもたちの受け皿として湖西国際交流協会が初期支援や日本語教育を展開しているが、場所の問題やボランティア不足などいろんな課題が山積み。行政のバックアップはどう考えているか。

#### <事務局>

市が委託をしていることもあり、月に1度は打ち合わせ会を行っていて今伺った問題などの現状は聞いていて、子どもの数が多く本当は教室を増やしたいということで考えて

いる。鷺津地区にどうしても多いため現在の体制で行っているが、新居地区でも教室を増やしている。日本語教育については、文化庁からも力を入れるように言われているため、前向きにとらえている。

### <事務局>

説明 資料1：第2期湖西市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業効果検証シート

#### 【2021年度事業の評価】

資料2：第2期湖西市まち・ひと・しごと創生総合戦略指標一覧

[戦略3、4、横断的戦略について説明]、[事前質問について]

※事前質問への回答については、別紙「事前質問事項一覧」参照

### <座長（副市長）>

補足をさせていただくと、畜産臭気対策については、職住近接を推進するためには重要な課題と考えており、昨年度は県の中小家畜研究センターと連携して臭気を抑える実験を市内の養豚場で行った。また、豚舎の温度が高くなると臭気が発生するため、暑熱対策を県と企業と連携して、今後実証実験を行う予定。積極的に取り組んでいきたいと考えている。

土地の利活用については、市内企業や市外からの参入など工業用地のお話をいただくが、なかなか適した土地が市内に無い状況。このため現在、県の企業局と連携して、市内の適地について調査を進めており、問題が無ければ、今後、造成を進めていくよう準備をしていく予定。

(質疑・意見交換)

### <遠藤委員>

戦略3 産業の「施策15 就業支援」について、基本事業33～35の就業支援事業でコロナ禍の環境ということでイベントをやりにくかったという説明があったが、若者の就職支援の観点からウィズコロナを前提に対面式から非対面式のPRとテレビ面談や職場の見学もカメラ等を使って見せるといった取り組みをしていかないと、若者のデジタル化が進んでいっている状況を踏まえてみると、遅れていってしまうと思う。世の中の流れ的にウィズコロナの中で、対面ではない新しい接点の作り方といったところでしっかりPR、つなぎ止めをやっていくとよいと思うので、モノづくりで現場を見せたいというところもあると思うが、まずは関心を持ってもらうという観点では、デジタルの活用の仕方というのを施策の中に入れていくとよいのではないかな。

### <座長（副市長）>

今は就職活動はほとんどオンラインで行われ、内定式などで初めて会うというような

話も聞いているのでオンラインについては進めていかないといけない。モノづくり産業ネットワークの取組みの一環で、市内企業のPR動画を作成して紹介をしたり、工場見学も動画で見れるようにすることを検討しているところ。

#### <事務局>

成果指標について補足をさせていただく。今回の指標については高校生向けの企業バス見学会を計画していた中での数値目標だったという中で、令和3年度は新型コロナウイルスの拡大を受けて数値として伸びなかった。そういったところも、今お話にあったウェブ上で動画を見て理解を深めていただくというような工夫をしていきたい。

#### <遠藤委員>

モノづくり産業ネットワークは、学校と市内や近隣の産業界との連携を主として進めていると思うが、世の中の大きな流れを見ていくと、環境やDXなど製造業でも異業種との接点をどう持っていくか。新しいものと繋いでいく活動もしていかないといけない。何か連携ができればと考えている。

スタートアップの企業との連携や交流会などは開催されているか。

#### <座長（副市長）>

モノづくり人材の育成と産業ネットワークの構築は、まずはモノづくり人材の育成ということで、市内の小中学生に工場見学や出前授業など、モノづくりの現場に触れてもらう機会を増やすことで、モノづくりに興味を持ってもらい、市内企業への就職につなげていきたいという取組み。産業ネットワークの構築は、それをさらに発展させて、地元企業だけでなく、少年少女発明クラブや職業訓練センター、行政、金融機関、商工会などをつないで、例えば企業で困っていることがあれば支援に繋いでいくという取組み。昨年度設置したモノづくり推進室がつなぎ役となる。

スタートアップについても、先日県でTechBeatというイベントがあり、いろいろな企業が出展していて、市内企業につなげていくことも検討している。

今後、異業種との連携についても、地域課題を解決するために異業種間での連携や企業のノウハウを行政としても活用することで、お互いウィンウィンの関係ができればと考えているので、金融機関にもぜひご協力をお願いしたい。

#### <大石委員>

湖西というと産婦人科が無いだとか臭気の問題、市街化区域が少ないという声がある。市も産婦人科の問題は浜松市と連携に取り組んでいることも承知をしていて、臭気の問題も昔よりはずいぶんよくなっているという声も聞く。湖西ポークの取組みで、畜産業と共に湖西市は行くんだというアピールもしている。

産婦人科の誘致の問題は簡単に解消できるものではないが、例えば産婦人科はないが、こういうことができるというアピールをしてほしいし、畜産臭気についても、取り組みを行って臭いの軽減を図っていると伝えてほしい。知らない人が多いので、湖西市は臭

いがするから住みたくないという声ばかりになってしまうと思うので、取り組んでいること、今やっていることをしっかりアピールしてほしい。

企業立地の関係で気になるのは、昨年発表された浜松湖西豊橋道路のICができるということは承知をしているが、企業もそうだが、住環境の問題で、どのように考えているのか。湖西全体で見ると、新規の宅地分譲地はできていないので、西岸区画整理などと一体で進めていくのだと思うが、もう少し市民に見せてほしい。

指標の関係では、評価をして進捗を図っていくということで報告をいただいているが、評価を改善するための策があるのであれば、この会議や市民に説明をしてほしい。

#### <座長（副市長）>

お話にあったように、せっかく市としていいことを行っているけども必要な情報が届かなければ意味がないので、そこは市として力を入れてやっていきたい。現在、市公式LINEでプッシュ型の情報発信をしており、その中でカテゴリー別に必要な情報を配信しているが、その仕組み自体を知らなければ意味がないため、気を付けてやっていきたい。

土地については、土地利活用の一体的推進の取組の中で、昨年度住宅用地に係る補助制度を創設した他、市全体の調整役として土地利活用統括監を設置し、全庁的に進めていく体制を整えた。浜松湖西豊橋道路については、市内にICができることによりその周りに工業、商業や住宅地ができ、市のさらなる発展につながることを期待している。あわせてアクセス道路が整備されることで、現在南北の移動は301号線しかない状況だが、新たな道路ができることで便がかなり良くなると思う。今後、浜松湖西豊橋道路の整備に合わせて、その周辺のランドデザインを作成する予定のため、市民の皆さんにもきちんと情報発信をしていきたい。

#### <末松委員>

事業や指標に対して評価を行い、コロナ禍という社会現象の中で評価が下がって、対策をしたがだめだったという評価もいいと思うが、一方でイレギュラー的にこの評価にはつながらなかったがうまくいったという事例を集めると、新しい道筋が見えてくるのではと常日頃から思っている。評価には至らないがうまくいったという小さな部分を拾い集めることが大切で、職員にとってもプラスになるのではないかな。

#### <座長（副市長）>

今回、各基本事業についても各課で評価を行う中で、そういった声はあったか。

#### <事務局>

数字だけで評価を行えない部分というのは重視していて、それぞれの評価を数値のみでの評価という方法もあると思うが、数字だけではない部分も加味して評価をしているため、評価区分について曖昧な表現となっているところ。資料をまとめるバックグラウンドには、各課からたくさんの情報があり、膨大な資料であるためすべてをお見せできず、うまく伝えきれていない状況ではあるが、この評価はそういった各課からの情報を集めたうえで成り立っているとご理解いただきたい。それをどうやって皆さんに伝えて

いくかということが課題。

**<座長（副市長）>**

職員も成功事例を研究することで成長につながると思うので参考にさせていただく。先ほどの大石委員の改善方法についてはどうか。

**<事務局>**

改善については、事務事業評価という、予算に対して事業が効果的であったかどうかを評価する中で示している。対象事業は事業費1,000万円以上の129事業。ウェブサイトで公表をしている。今後の予算の方向性を示しながら、改善について各課で検討をしてまとめている。

**<竹田委員>**

戦略4の社会増減数の動向について、2019～2021年の増減の大きな要因は何かと事務局に確認したところ、技能実習生の動向であるとのことであった。「施策21 移住定住促進」の重点基本事業であるマイホーム取得者へのアプローチでは目標値に近づいており、結果を出しているが、戦略目標で見ると社会増減数はマイナスになり目標には達しないという結果になっている。個別事業ではそれなりに成果を上げていても、戦略目標では他の要因も受けてしまう。だんだん外国からの流入制限も緩和をされてくれば、新型コロナの影響は減っていくと思われるので、マイナスの影響も出なくなると思う。短期で見ると、成果を上げている施策の結果が戦略目標では観測できない結果となっていることがあると思うが、それにめげずに地道な努力は続けてもらいたい。

**<座長（副市長）>**

新型コロナの影響がなければという中で、外的要因が地道に重ねている評価を見えなくしてしまっていることもある。今後どう推移していくか注視していく必要がある。

それでは、資料については一部修正を事務局で行い、委員の皆様からいただいたご意見を参考に、引き続き地方創生に向けた事業に取り組んでいきたい。

**5 閉会**